

支部だより

三年ぶりに総会を開催

会長 矢代 隆義 (高20回)

東京柏会では、令和四年七月二日(土)に東京・丸の内日本倶楽部で、会員約70名が出席し三年振りに総会を開催しました。総会は、「講演会」と「情報交換・懇談の時間」で約二時間半、飲食はペットボトルのお茶のみとし、母校や同窓会本部、各支部からの来賓ご招待を見合わせるなど従来と異なる形の開催となりました。

講演会では、作家でジャーナリストの横村出さん(高32)にご著書『放下(ほうげ)・小説佐橋ノヲ』を基に西国で大勢力を成した鎌倉御家

人の毛利氏と柏崎の関わり、そして越後毛利の由来を、また、声優の堀井真吾さん(高28)と女優の永玉千晶さん(高54)には、前年に柏崎市で上演された舞踊劇「綾子舞物語」を振り返りながら、その舞台裏を語っていただきました。

十二月三日には都内世田谷区で柏崎市長肝入りの「柏崎つながりづくり懇親会」があり、常盤商業、工業、総合、産大付属の各高校の同窓会及び柏崎談笑会の関係者ととも、東京柏会からも代表者一名が参加し、お互いの情報交換を行うこととなりました。

ともに絆を確認し合いました。

東京柏会の事務局は、令和四年四月に、武田茂氏(高23)の会計事務所(都内千代田区)から流矢大士氏(高32)の法律事務所(同港区)に移転しました。



横村出さん

永玉千晶さん

堀井真吾さん

新潟柏会



拉致問題

いま考える

蓮池薫氏が講演

令和四年六月、三年ぶり開催の総会で、拉致被害者の蓮池薫氏(高28)が講演。同窓に熱く重く響いた要旨を報告する。

解決への道筋

十月十五日で帰国して

二十年になるが、全員がまだ帰れていないので重苦しい気持ちがある。今日は二点について話したい。

一つは、なぜ解決しないのか。

二つ目は、解決するためにはどうすればよいかということ。北朝鮮の現状を見て、それをどう帰国につなげていくか。

まず一つ目。拉致は、現在の金正恩(キム・ジョンウン)の父親である金正日(キム・ジョンイル)が、一九七〇年代後半、党内の権力争いが激しかった中で、成果をあげるために指示したもので、目的は三つある。

一つは、日本人に偽装したスパイをつくるためで、日本人の誰かになりかわって、正式にパスポートや運転免許証を持つための身代わり。

二つ目は、横田めぐみさんの夫のように、その国の現状や言葉遣いなどを教える教育のため。

三つ目は、外国人スパイとして利用するためで、思想教育をして、必要な時に工作員として利用しようというもの。

富山県で拉致未遂事件があり、他にも理由もないうまくなくなったアベックがいることがわかったことから「謎のアベック失踪事件」として報じられたが、関心は盛り上がりなかつた。それが、大韓民国飛行機爆破事件で、日本人の教育係が田口八重子さんと判明したことから関心が高まり、さらに、ジャーナリストが韓国で「十三歳の日本人少女が拉致された」という情報を得たことから横田夫妻が家族会を立ち上げて名前を出し、一九九七年に大きな動きとなった。

下の者が勝手にやったこととして拉致を認めた。子どもを人質にすれば言うことをきくと考え、一部の被害者がビョウヤンで日本の家族と会って、日本に帰らないと言わせ、あとの被害者は死亡したことになればいいと、十三人のうち五人を生存者として、残りの八人は死亡し遺骨は洪水で流されたという報告をした。しかし、亡くなったと言われた家族から、調査団を派遣してしっかり調査しなければ到底受け入れられるものではないと反発された。

なぜ拉致問題が動いていないのか。十三人のうち八人死亡、七人の遺骨は洪水で流されたなどということはありえない。めぐみさんも増えるみ子さんも、死亡したと言われる時期後に生存しているし、北朝鮮はお墓を大事にしている、洪水で流されるような場所にお墓をつくらない。このくらいで日本政府は受け入れようとする。韓国文化が入ってくるが、「韓流排撃法」が成立し、コンテンツを流入して流布させると終身刑か死刑とするなど、若者が韓流に染まるのを防ごうとしている。中国の支援でなんとかもたせ、アメリカと核で対抗しようとしている。

核開発を進め、十月には多弾頭核ミサイル火星十七号が成功したと発表したが、十五号を打ち上げて十七号に見せかけたもの。前線地域にロケット部隊を置き、通常兵器ではアメリカや韓国に大きく遅れているので、核開発しかないと言われている。世界の非難や制裁から守ってくれる中国やロシアと密接で、コロナの治療薬や肥料は中国から支援を受けており、中国に見捨てられると厳しい状況。

二〇一七年から制裁が強化され、さらにコロナの追い打ちで国民の不満が大きくなっている。その不満を抑えるために国内統制を行っている。中国経由で韓国文化が入ってくるが、「韓流排撃法」が成立し、コンテンツを流入して流布させると終身刑か死刑とするなど、若者が韓流に染まるのを防ごうとしている。中国の支援でなんとかもたせ、アメリカと核で対抗しようとしている。

核兵器の開発はこのまま行くと、中国はミサイル発射について

は国連制裁決議案に対し拒否権を行使したが、核実験についてはミサイル発射と同じではないと発言しているし、アメリカと韓国はこれまで以上に強力に対応する。核大国になるのをこれ以上望まない米中の関係は改善の方向に行き、北朝鮮のカードとしての力は落ちる可能性がある。

国内統制もしばらくは持つが厳しい状況で、じきにまた韓流は勢いをもち賄賂が通用するということ、これまでの繰り返し。体制崩壊にはいかなくても不安定であり、窮地に陥っている可能性もある。

核ミサイルの動きもあり、アメリカと北朝鮮の交渉はまだ二三年は難しい状況にある。拉致被害者の両親で存命されているのはあとお一人だけになった。とにかく拉致被害者を帰す。そうすれば現状においてできる範囲で医療品の提供等の人道支援をする。また、アメリカと非核化で合意したら、それに応じて支援をする。今帰さなければ将来も国交正常化はない。北朝鮮は、ハノイ会談で手ぶらで帰ってきて悔しい思いをしている。政府は無条件で会うと呼びかけるだけではなく、このように、北朝鮮が窮地に陥った時の選択肢として日本を選ぶような案を示して交渉してもらいたい。

(文責：新潟柏会)

二〇二二年度は、中山会長就任後、新体制での総会を開催することができました。まだまだ制約も多くあることから、本会、他支部からの来賓はなし、二〇二二年度の参加者を中心とした案内をさせていただきます。結果、参加者は少人数ではありますが、再会もあり、良い時間になった事と思います。

開催にあたっては事前にZoomでの役員会を数回開催しました。また、役員OBの先輩方の意見を聞きしたり、本部には今年度の四月に関西に進学された卒業生の情報入手するなど、総会開催に向けて準備を進めました。

総会は十月二十日(日)14時~16時、会場は集まりやすさを優先してJR

京都駅前「TKPガーデンシティ京都タワーホテル」で行いました。内容は総会(各種報告)に続き、講演、相談事項(意見交換)の順に行いました。講演は、中山眞会長(高20回卒)から「DX(デジタルトランスフォーメーション)とデジタル競争力」の講題でお話をいただきました。日々進化するデジタル技術と私たちの暮らしへの影響についてお話いただきました。相談事項では、今後の関西柏会の総会の開催方法や案内若手会員の参加促進など

について意見交換を行いました。

二〇二二年度に向けての変更点等は次の通りです。

①開催日時の変更、10月の最終土曜日の14:00~18:00(これまででは10月の最終日曜日の11:00~14:30)変更

②関西柏会の紹介チラシの作成と卒業式での配付(新規)

③総会案内を学生の帰省中に届くよう、お盆前までに発送(新規)

など、出来るようなことから順次取り組んでいきたいと思います。

<p>柏崎信用金庫</p> <p>理事長 小出 昭夫 (高27)</p> <p>柏崎市東本町一丁目二番十六号 電話(〇二五七)二四一三三二一</p>	<p>柏崎高等学校校友会会長</p> <p>小野 敏夫 (高16)</p> <p>〒945 柏崎市荒浜三丁目二番九三 電話(〇二五七)二四一六七五〇</p>	<p>柏崎市長峰町七番六号</p> <p>株式会社 イシザカ</p> <p>代表取締役 石坂 泰男 (高35)</p>	<p>株式会社 小林英文英堂</p> <p>代表取締役 小林 英介 (高34)</p> <p>〒945 柏崎市西本町二丁目二番一十一号 TEL(〇二五七)二四一三三六〇 FAX(〇二五七)二四一三三六〇</p>	<p>矯正歯科・小児歯科・歯科</p> <p>きたざわ歯科</p> <p>かみあわせ研究所</p> <p>北澤 智昭 (高23)</p>	<p>(株) 柏新商会</p> <p>代表取締役 吉田 孝継 (高32)</p> <p>吉田 晃継 (高59)</p>	<p>高橋信行法律事務所</p> <p>辯護士 高橋 信行 (高33)</p> <p>〒940 長岡市幸町一丁目一〇号幸町ビル二階 TEL(〇二五八)三七一五五二二 FAX(〇二五八)三七一五五二二</p>	<p>(株) 田写真館</p> <p>スタッフ一同</p> <p>柏崎市扇町一丁目一八 TEL二二二二二二二二</p>	<p>株式会社 植木組</p> <p>代表取締役社長 植木 義明 (高23)</p> <p>新潟県柏崎市駅前二丁目五番四五号</p>	<p>株式会社 アイエステート</p> <p>代表取締役 松谷 誠也 (高24)</p> <p>〒945 柏崎市東港町四番一五号 TEL(〇二五七)二四一三五四五</p>
---	--	--	--	--	--	---	--	---	--

令和4年度
同窓会総会
の報告



記念文化講演会
代表取締役
高橋 四郎氏 (高29回)

「映画を創る」について

令和4年度の柏中・柏高同窓会総会が、八月六日(土)柏崎市産業文化会館で開催されました。

恒例の記念文化講演会「映画を創る」は、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症対策をとったうえで行われました。

講師の小林三四郎氏は、大学在学中より演劇に関わり、その後、劇団「秘玉斎番館」に入団俳優として活躍した他、大森(株)の設立に参加し代表者として、数多くの劇作品を製作、配給して来られた。

講演の小林三四郎氏は、大学在学中より演劇に関わり、その後、劇団「秘玉斎番館」に入団俳優として活躍した他、大森(株)の設立に参加し代表者として、数多くの劇作品を製作、配給して来られた。

その後竹内統一郎主宰の劇団に入るが、彼は映画にも造詣の深い方で、その知り合いで映画美術の巨匠木村威夫が自分の芝居を観て「君は今ダメだけど30年後には光る」と言われたことがあった。最初にプロデュースした映画は、その木村威夫が92才で監督した『黄金花』だったが、輝いていた時代を戦争にとられたことをずっと考えている方だった。

自分の実家は金泉寺という真言宗の寺だが、昭和50年代にはやたら法事が多かった。それだけ出征して亡くなった方が多かったのだと思う。母は戦時中柏崎に疎開して来て、終戦後父と結婚したのだが、戦争がなければ自分は生まれていない。父母は戦争についてあまり話をしなかったが、なぜか今自分が関わっている映画は戦争にまつわるものが多い。小林正樹監督の『東京裁判』は、膨大なフィルムを寄せ集めた作品だが、そのフィルムは米国や連合国のもの、日本のフィルムは全く



が、柏高の自由さの中で学んだものは「反逆心」ではないだろうか。もう少し張りつめた。五年以内に柏崎でささやかな映画祭が開かれ日本の先端と海外の先端を見比べることが出来れば素晴らしいことだと思っている。

最後に、片嶋一貴監督の『天上の花』を紹介したい。戦争の時代に翻弄され詩と愛の葛藤に生きた三好達治を描いた作品である。実家を含め大部分を柏崎でロケした映画であり、完成披露は柏崎でやりたい。

柏高で野放図なくらいに自由な時間を味わったことに感謝するばかりだ。同窓の皆様にも、頑張つてこの柏崎の自由な空気を次の時代へと伝えていって欲しい、と結ばれました。

令和4年度総会には63名が出席。堀和昭当番幹事が、土田新吾同窓会長(高16回)が、来年こそ懇親会を含めた総会を実施したいと述べられました。続いて吉川保校長が、育てたい生徒像のグラウンドデザインに触れ、新しい歴史を同窓の皆様と共に作っていきたくと述べられました。

議事では、事業報告、決算、新年度事業計画、予算が原案通り承認され、閉会しました。

お知らせ
「柏崎郷土物語」は、紙面の都合により、休載いたします。

がんばれ！同窓生 21

小説集『開演前』を出版した 外山 文子さん(高19回卒)



1948年生まれ。柏崎高校19回卒。日本女子大学文学部国文学科卒。1982年～2012年まで柏崎市で学習塾経営。他の著書に『白の滑走』2006年(日本文学館)、『冬のいた場所』2010年(幻冬舎ルネッサンス)がある。筆名 外川奈佳子。新発田市在住。

小説と音楽

二〇二二年三月に小説集『開演前』を新潟日報メディアネット(旧新潟日報事業社)より自費出版した。編集、校正をお願いしたのは、二〇二〇年から三年経たことなる。

この三年はコロナ禍と共にあった。何か外に向かつて行動するわけでもなく、仕事も辞したので、もっぱら家に引きこもっていた。

そんな中で、過去約二十年間に渡り、書き溜めた短編がダンボール箱で眠っていることに気付いた。小説集にすることを決意した。家で出来る唯一の「行動」だと考えたからだ。

柏高時代の思い出といえば、昼休みや放課後海辺で女子トークをしたこと。今から思えば、校舎から歩ける距離に海があるとは、なんと贅沢なことだったかと思う。諸事情により、十年前、柏崎から新発田に転居したが、住む所は海辺からは

遠い。同じ県内でも、気候、風土がかなり違う。柏崎の魅力はなんといっても、海の美しさと潮の香りだろう。

文系頭脳なので、高校の国語の授業は楽しかった。中でも現国の久我正史先生の若々しい声は記憶に鮮明だ。最初の授業「ご自分の名前を板書し「大抵の人はまさしく読みますが、教養のある人は正しくまきふみと読んでもくれます」とユーモアのある自己紹介をされた。早く亡くなられた由を知り、哀しい。

確か久我先生の担当時代の教科書に芥川龍之介の『トロッコ』が載っていた。童話のような短い作品だが、なぜかひどく心魅かれた。何を書くかは漠然としていたが、「書ける人間になりたい」と思いついた。童話のような短い作品だが、なぜかひどく心魅かれた。何を書くかは漠然としていたが、「書ける人間になりたい」と思いついた。

備校的な授業ばかりで面白くなかった」と愚痴る友もいるが、そうは思わない。当時は市内に予備校も塾もなく、手探りで大学進学を目指すしかない。学校だけが頼りだった。不足するものは講師も生徒もマスク着用。互いに感染リスクを覚悟で続けている。この時世、はなはだ響感をかう習い事だ。一カ月に一回、会った時は互いの無事を喜び合う。まるで戦時下だ。歌も「ちよっぴり暗め」が好きだ。音楽は「書くこと」とは別次元で、自分を開放、昇華してくれ。まだまだ続くコロナ禍、不穏な世界情勢、小説や音楽は不要不急な案件か。が、星明り、月明りにも救いがある、と思いたい。



本著書は自費出版のため書店等ではお求め出来ないこともあります。購入希望の方は同窓会事務局までご連絡ください。なお、新潟県内の主な図書館では読むことができます。

<p>Uターンをお考えの方、ぜひご連絡を！</p> <p>長澤智信 (高49)</p> <p>削りを極めた金属部品メーカー 株式会社テック長沢 TEL (〇二五七) 二四一―二二五</p>	<p>原酒造(株)</p> <p>原吉隆 (高28)</p> <p>柏崎市新橋五―十二</p>	<p>星野商事株式会社</p> <p>代表取締役 星野忠 (高19)</p> <p>本社 柏崎市鏡波甲673―110 支店 柏崎市大田区田園調布5―20―15 TEL hoshinoorp.com (02557) 4512271</p>	<p>新沢歯科医院</p> <p>新澤秀樹 (高22)</p> <p>柏崎市徳波町二番二号</p>	<p>柏崎日報社</p> <p>代表取締役会長 山田明彦 (高18)</p>	<p>藤村クレスト株式会社</p> <p>代表取締役社長 藤村範夫 (高34)</p> <p>〒945-0061 柏崎市栄町7番8号 TEL (二二二) 三二四四</p>	<p>佐藤塗料株式会社</p> <p>代表取締役社長 佐藤裕幸 (高20)</p> <p>代表取締役会長 佐藤信義 (中39)</p> <p>柏崎市駅前二丁目一番四三号</p>	<p>辯護士 高一野毅 (高30)</p> <p>事務所 84長岡市幸町一丁目三番一〇号 TEL 〇二五八―三三三―四四四四 FAX 〇二五八―三三三―四四七八</p>	<p>(株)ライブ商事</p> <p>代表取締役社長 品田優治 (高41)</p> <p>海の恵魚のアラで作った有機JAS資材評価協議会登録肥料 株式会社柏崎エコクリエティブ 代表取締役 仁木賢 (高17) TEL (〇二五七) 二八一―〇七七</p>
---	---	--	---	--	---	---	---	--